

入試のエッセンス

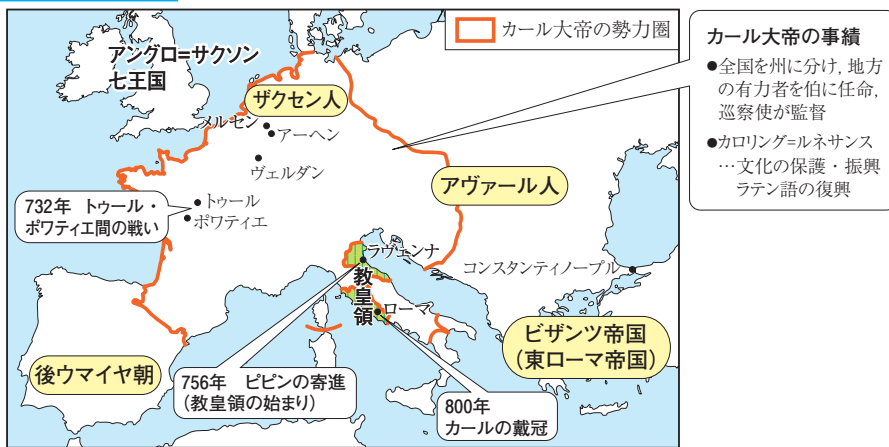
1 西ヨーロッパ世界の成立について考える

📍のつけどころ

フランク王国の発展とローマ教会との提携に注目！

ほかのゲルマン諸国が短命に終わる中、フランク王国はローマ教会との結びつきを強めて強大化した。800年のカールの戴冠によって西ローマ帝国が復活し、東のビザンツ帝国から自立した“西ヨーロッパ世界”が成立する過程について、フランク王国とローマ教会との提携を軸に整理しよう。

フランク王国の隆盛



☑️チェック

- ☑️ ローマ教会とコンスタンティノープル教会は、7世紀半ば頃から首位権をめぐる争った。コンスタンティノープル教会を支配するビザンツ皇帝が726年に①_____令を発すると、ローマ教会は反発し、ビザンツ皇帝からの自立をはかった。
- ☑️ フランク王国の宮宰②_____は、③_____の戦いでイスラーム軍を退けた。これを受け、ローマ教皇は、ビザンツ皇帝に代わる政治的庇護を求めてフランク王国に接近した。
- ☑️ ②_____の子ピピンは、ローマ教皇の支持を得て、751年に④_____朝を開いた。ピピンは北イタリアのランゴバルド王国を攻撃し、獲得した⑤_____などの土地を756年にローマ教皇に献上した。これが教皇領の始まりとなった。
- ☑️ ピピンの子カールは、ランゴバルド王国を滅ぼしたほか、ザクセン人やアジア系の⑥_____人を破り、西ヨーロッパの主要部分を支配した。ローマ教皇の⑦_____は、800年にカールにローマ皇帝の帝冠を授け、“西ローマ帝国”の復活を宣言した。
- ☑️ カールの戴冠を契機に、政治的・宗教的にビザンツ帝国から自立した西ヨーロッパ世界が成立し、以後、西ヨーロッパでは、ローマ=カトリック教会の宗教的権威と⑧_____人の政治権力、そして古代ローマの文化とが融合した独自の文化圏が形成されていった。

空欄の解答

- ① 聖像禁止 ② カール=マルテル ③ トゥール・ボワティエ間
 ④ カロリング ⑤ ラヴェンナ ⑥ アヴァール ⑦ レオ3世
 ⑧ ゲルマン

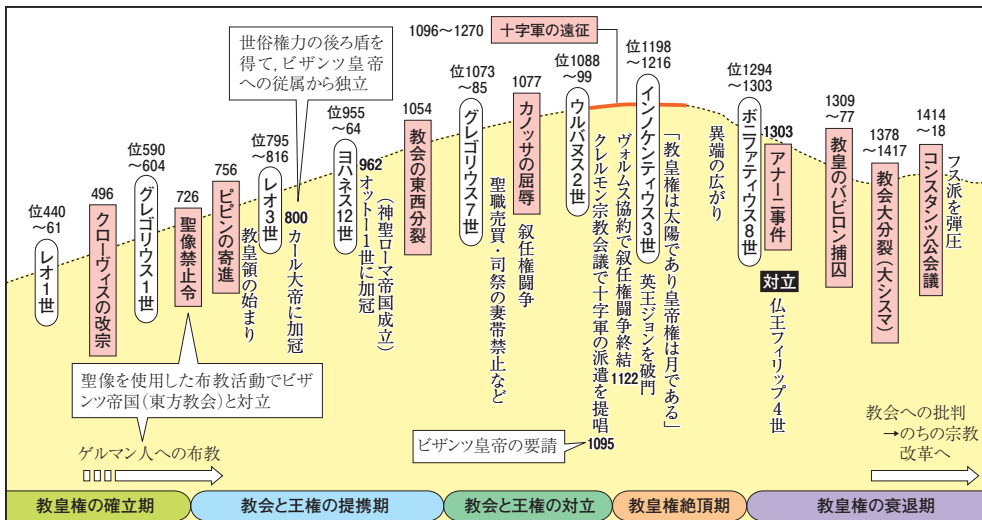
2 教皇権の盛衰について考える

📌 のつけどころ

中世西ヨーロッパにおける教皇権の発展と衰退の過程に注目！

フランク王国の分裂後も、ローマ=カトリック教会は西ヨーロッパ世界の精神的な支柱として普遍的権威を保った。教皇権の盛衰について、ビザンツ帝国や西ヨーロッパ諸国との関係に着目しつつ整理しよう。また、14世紀頃からは、教皇権が衰退する一方で、国王の権力が伸張した。入試のエッセンス3で取り上げる封建社会の崩壊と併せて、経過を整理しよう。

教皇権の盛衰



☑ チェック

- ☑ ローマ=カトリック教会が西ヨーロッパに浸透する中、皇帝や国王は高位聖職者の任免を通じて教会に介入するようになった。こうした教会の腐敗に対し、10世紀頃から① _____ 修道会を中心に教会刷新運動が起こった。
- ☑ ローマ教皇② _____ が世俗君主による聖職叙任を禁止すると、神聖ローマ皇帝③ _____ はこれに反発し、教皇と抗争した。その後、1122年に④ _____ が結ばれて教皇と皇帝の妥協が成立し、政教分離の下で教皇の優位が確立した。
- ☑ 教皇権の強化と東西教会の統一をはかり、教皇⑤ _____ は1095年の⑥ _____ 宗教会議で十字軍の派遣を提唱した。第4回十字軍を提唱した⑦ _____ の時代に教皇権は絶頂期を迎えた。
- ☑ 十字軍が最終的に失敗に終わると、それまで西ヨーロッパ全域で強大な影響力を誇っていた教皇の権威が衰え始め、一方で、遠征軍の指揮をとった国王の権力が強化された。
- ☑ 1303年には教皇⑧ _____ とフランス王フィリップ4世が教会への課税をめぐって争い、教皇を破ったフィリップ4世は教皇庁をアヴィニョンに移転した。その後、各国の国王が教皇を擁立する⑨ _____ が生じ、コンスタンツ公会議で収拾されるも、教皇権は大きく失墜した。

空欄の解答

- ① クリュニー ② グレゴリウス7世 ③ ハインリヒ4世
 ④ ヴォルムス協約 ⑤ ウルバヌス2世 ⑥ クレルモン
 ⑦ インノケンティウス3世 ⑧ ボニファティウス8世 ⑨ 教会大分裂